

## やまなみ五湖賞

### 私は小さな開発者

「ああー」気持ちが良いすぎて思わず声が漏れる。

「やっぱり源泉かけ流しって最高だね。」

私の家族は温泉が大好きで、連休になると必ずといってよいほど、温泉旅行に出かけている。今回の春休みに訪れた鳴子温泉郷も、至る所で沢山の温泉がこんこんと湧き出ていた。

「そういえば、宮ヶ瀬ダムが危機なんだっけ・・・。」

ふと、私が住む横浜市の大事な水源である宮ヶ瀬ダムの今年の貯水率が二十五パーセントで、過去最低レベルの渇水というニュースが頭をよぎった。

「鳴子温泉の泉質は飲用することもできるくらいだし、この溢れ出る温泉水を生活水として利用することはできないだろうか？」

知識のない私は、温泉水をろ過すれば、せめて下水として活用し、現在全国各地で起きている水不足を、少しでも解消することができるかもしれないと考えた。

後日私は、宮ヶ瀬ダムの情報収集と共に、温泉水や、以前から気になっていた、海水を生活水として利用するためにはどのようにすればよいのかについて調べてみた。すると、温泉水は成分により配管を詰まらせ、機器故障を起こす原因となったり、海水は、除去された濃縮塩水の廃棄に伴う環境汚染等の問題により、そう簡単に実用化できないことが分かった。確かに、中学生の私が考える程度の発想は、当然のように既に研究がされ尽くされていて、様々な理由から水不足の代替手段としてあまり利用されていなかったのだ。まだまだ自分の知識の浅はかさに悲しくなった。

そして、宮ヶ瀬ダムについては、ダム建設前にあった沈んだ村が、今回の水位低下により、四十年ぶりに顔を出したという。ダム建設が開始された一九八七年に約二百八十一世帯もの人が移転を余儀なくされたそ

横浜市立市ヶ尾中学校 二年 堀野 裕愛

うだ。その方たちの努力や涙があったからこそ、私たちは安定した水を確保することができている。更に洪水からも守られ、毎日の安全な暮らしが送れているという、感謝をしなければならぬ事実も知った。

「よし、こんなことでめげてはいられない！」

相手は自然、まずは目の前の宮ヶ瀬ダムの貯水率を、平常時の八十八パーセントまで戻せずとも、減るペースを落とす努力から始めてみよう。中学生の私にでも簡単にできる、当たり前前の「節水」という小さな意識改革から。そして、日頃からの

「これって何かに利用できないかな？」

の問いの答えが、いつの日にか実を結べる日を夢見て・・・。